

## 第4回町田市スポーツ推進審議会 議事要旨

日時 2024年2月6日(火) 18:30~20:30

場所 町田市役所 10階 10-2会議室

### 出席者

|        |          |                                |
|--------|----------|--------------------------------|
| 川崎 登志喜 | 委員(会長)   | 玉川大学教育学部 教授                    |
| 宮崎 光次  | 委員(職務代理) | 桜美林大学健康福祉学群 教授(オンライン参加)        |
| 永吉 英記  | 委員       | 国士舘大学体育学部 教授(オンライン参加)          |
| 西井 義昭  | 委員       | 一般財団法人 町田市体育協会 副会長             |
| 小川 由起子 | 委員       | 町田市スポーツ推進委員(オンライン参加)           |
| 水野 洋子  | 委員       | NPO 法人スポーツ塾 J.VIC 理事長(オンライン参加) |
| 渋谷 俊彦  | 委員       | 町田商工会議所 青年部会長(オンライン参加)         |
| 小八重 眞弓 | 委員       | 市民委員(オンライン参加)                  |
| 川口 圭介  | 委員       | 市民委員(オンライン参加)                  |
| 薄井 忍   | 委員       | 南中学校校長                         |

### 欠席者

|       |    |                             |
|-------|----|-----------------------------|
| 江口 寛征 | 委員 | 社会福祉法人合掌苑 特別養護老人ホーム合掌苑桂寮施設長 |
|-------|----|-----------------------------|

### 事務局

文化スポーツ振興部スポーツ振興課長 高梨 光之  
文化スポーツ振興部スポーツ振興担当課長 根岸 良美  
文化スポーツ振興部スポーツ振興課担当係長 荒木 康伸  
文化スポーツ振興部スポーツ振興課担当係長 地寄 一敏  
文化スポーツ振興部スポーツ振興課担当係長 須田 恵美子  
文化スポーツ振興部スポーツ振興課担当係長 十河 真広  
文化スポーツ振興部スポーツ振興課主任 積 さゆり

### 傍聴者

0名

## 議事等

### 1. 開会

### 2. 報告事項

- (1) 2023年度スポーツに関する市民意識調査アンケート調査結果について
- (2) 町田市スポーツ推進計画 19-28 進捗状況について
- (3) 町田市スポーツ推進計画 19-28 アクションプラン進捗状況について
- (4) 町田市スポーツ推進計画 19-28 アクションプラン（2019～2023年度）の振り返りと評価
- (5) 町田市スポーツ推進計画 19-28 アクションプラン（2024～2028年度）案について

### 3. 議事

- (1) 町田市スポーツ推進計画 19-28 およびアクションプラン（2019～2023年度）進捗状況及び振り返りについて
- (2) 町田市スポーツ推進計画 19-28 アクションプラン（2024～2028年度）案について

### 4. 事務局から

### 5. 閉会

## <資料>

資料 1-1 町田市スポーツに関する市民意識調査アンケート\_抜粋

資料 1-2 町田市スポーツに関する市民意識調査アンケート

資料 2-1 スポーツ推進計画 19-28 アクションプラン進捗管理報告用（各施策1個程度）

資料 2-2 スポーツ推進計画 19-28 アクションプラン進捗管理報告用詳細

資料 3 目標値の達成状況に対する評価の考え方

資料 4 スポーツ推進計画 19-28 の成果指標と達成目標、2023年度までの実績

資料 5-1 町田市スポーツ推進計画 19-28 アクションプラン（2019～2023年度）の振り返りと評価

資料 5-2 別紙1 町田市スポーツ推進計画 19-28 アクションプラン（2019～2023年度）の振り返りと評価の補足

資料 6 町田市スポーツ推進計画 19-28 アクションプラン（2024～2028年度）案

## 議事要旨

### 1. 開会

### 2. 議事

- (1) 町田市スポーツ推進計画 19-28 およびアクションプラン（2019～2023年度）進捗状況及び振り返りについて

事務局より配布資料について説明を行った。

会長 5年間の評価について説明があった。意見・質問はあるか。

西井委員 コロナ禍を経た評価としては前向きにとらえたい。

渋谷委員 資料はよくまとまっていた。働き盛り世代のスポーツ実施率が低い点は課題だと感じている。企業と連携し、例えば業務時間内にスポーツに取り組むなど、スポーツ実施率向上に官民連携で取り組んでいけるとよい。商工会等を通して市内の企業の協力を仰いで

いけるとよい。

- 薄井委員 コロナ禍が収束し、学校でのスポーツ環境は今後改善していくと考えている。
- 水野委員 地域スポーツの観点から、スポーツマップの活用は成果が出ていたと感じている。より一層、地域スポーツを活用し、働き盛り世代や高齢者の実施率も向上していけるとよい。障がい者スポーツについて。10年前はボッチャがここまで普及するとは考えにくかったが、根付いていると感じている。東京2020大会のレガシーとしてどのように地域スポーツを推進していくかは考えていきたい。
- 川口委員 障がい者スポーツのボランティア参加は少ないと感じる。アンケートは無回答が多い点が気になった。
- ボッチャの普及はポジティブなこと。高齢者のスポーツ推進についても引き続きうまく連携していけるとよい。
- 働き盛り世代についてはスポーツ実施率の状況がよくない。就労環境の変化にも対応していけるとよいだろう。
- 会長 無回答が多い点について事務局から説明はあるか。
- 事務局 今後詳細について分析していく必要はあるが、興味関心を持っていただいている方がそもそも少ないことが、無回答の多さに繋がっていると考えられる。今後の後期アクションプランでは、パラスポーツについてより一層推進し、理解促進・普及啓発に取り組むとともに、回答しやすくなるよう設問構成等についても改めて考えていきたい。
- 西井委員 働き盛り世代のスポーツ実施率について数値がよくない。町田市体育協会としても、向上を図ることができるように検討していく。
- 小川委員 コロナ禍でスポーツの機会は減ったと思うが、ボッチャは小学生や高齢者の中で普及された。今後町田市でボッチャの市町村大会が開催予定である。ボッチャの指導は現状スポーツ推進委員が対応しているが、今後手が回らなくなる懸念もある。今後町田市でボッチャ協会ができるとよい。年齢や障がいの有無を問わず、ボッチャの大会も市内で実施できるとよい。
- 小八重委員 まちだサポーターズは新型コロナウイルス感染症が「5類感染症」移行後、活動の場や参加機会が増えてきたと感じている。今後市民を巻き込んだ自主事業の実施を模索している。例えばボッチャ大会などの定期開催ができればと考えている。
- FC町田ゼルビアがJ1に昇格したこともあり、活動がさらに増えていく期待もある。
- 永吉委員 資料がよくまとまっており理解できた。今後も継続して評価、調査を実施していけるとよい。
- 特徴的な変化に注目してみたが、基本目標3の子どものスポーツ環境の悪化についての数値が改善しているのはよいこと。スポーツマップ配布のほかの原因分析について、「公園設備がよりよくなったから」などの、詳細がわかるとさらによい。
- FC町田ゼルビアのJ1昇格がトピックにあったが、自分自身も応援のために現地観戦していた。この盛り上がりによって、町田市内でスポーツを観戦したという回答の割合も目標値に近づいていけるとよい。
- 働き盛り世代や、小中学生女子のスポーツ実施率の改善は課題だと考えている。ウォーキングやサイクリング、自宅でも取り組めるヨガやストレッチ、公園での運動など、身近な場所で気軽に自分のペースで実施できる環境づくりに注力していけるとよい。

中学生女子のスポーツ実施については、運動部活動の地域移行と合わせてアプローチしていけるとよい。

宮崎委員 永吉委員と同じく、資料がまとまっており理解できた。今後も継続して評価、調査を実施していけるとよい。

基本目標2スポーツに関わる人材と組織の充実について、スポーツを支える人材の育成が重要だと考える。人材・組織育成の充実を図るために人材データベースを活用しマッチングを図ることも重要だと考える。

会長 この5年間の成果指標の変化で、スポーツ実施率が向上したこと、する・みる・支えるに関わった人の割合が維持できたことはよいことだと捉えている。委員のみなさんの意見を踏まえながら市はしっかり施策の推進と評価ができているということだろう。

2018年当初の数値と2023年の数値を比較分析することも面白い観点だと考える。スポーツマップの配布は一定の成果が数値としてあらわれていると考えられるため、特徴的・効果的な事業であったということだろう。

FC町田ゼルビアJ1昇格が各事業にもたらす効果は多岐にわたるため、来年以降さらなる向上が期待される。

(2) 町田市スポーツ推進計画19-28アクションプラン(2024~2028年度)案について事務局より配布資料について説明を行った。

会長 スポーツマップは後期アクションプランでは、具体的にどのようにイメージしているのか。

事務局 新たに工夫する点として、地域の中でのスポーツ実施につながる情報掲載という点も考えていきたい。

会長 QRコード掲載や「おすすめのコース」など新しい人をターゲットにするなど、もう一工夫できるとよい。

永吉委員 スポーツマップはブラッシュアップできるとさらによいものになると感じている。また、整理番号1-2-2ホームページやSNS等多様な媒体・手段を活用した運動動画等の情報発信について、SNS動画とリンクして撮影場所情報など地域のリアルな情報を伝えられるサイトなどもあるとよいと感じた。マップとSNSを関連付けられるとよい。

町田GIONスタジアムへの徒歩でのアクセス途中には魅力的な環境がある。山道などの情報を新たにマップにできるとよい。

薄井委員 中学生の部活動地域移行の検討の一つとして、拠点校制がある。拠点校制をとると複数校の生徒が集まることになるため、活動場所として野津田公園も選択肢になる可能性がある。そうなった際は、スポーツができる場所等について、掲載していくべきだと考える。

西井委員 アンケート結果は振るわなかったが、働き盛り世代もスポーツに取り組まれている方が多いという印象がある。忙しくて時間が無くてもヨガやストレッチなどは実施しているのではないかと。アンケート設問に工夫を図るなどして、スポーツ実施の回答を引き出せるよう検討をしていけたらよりよいと考える。

水野委員 整理番号1-2-2ホームページやSNS等多様な媒体・手段を活用した運動動画等の情

報発信とあるが、当地域スポーツクラブでは、2023 年度に、ながらエクササイズという動画を作成してみた。通勤時の早歩きなどを紹介した内容である。スポーツをする、となるとハードルが高い印象を受ける方もいるため、つま先立ちや早歩きなどもスポーツとして捉える旨を、市のアンケート調査でもわかりやすく記載し、「ながらスポーツ」のようなものもスポーツという意識を発信していけるとよい。

また、先日参加した地域スポーツクラブの交流会で「ゆるスポーツ」など障がいの有無に関わらずできるスポーツについて話題になった。「ゆるスポーツ」などを普及していくことで参加者の幅が広がると感じている。

小川委員 整理番号1-2-2にあるSNS等での情報発信について。スポーツマップに様々な情報を集約できるとよい。確定情報を掲載するためにも計画的に記載内容を検討していけるとよい。

また、人材確保のためのデータベース化にも取り組んでいけるとよいと感じている。

川口委員 3点ある。①みるスポーツ環境の充実について。FC町田ゼルビアがJ1に昇格したことで、有力チームとの対戦の際はさらに多くの人を訪れることを期待している。ゼルビアをサポートする機運を醸成していくために、アクセス環境の向上は重要だろう。

②東京 2025 デフリンピック大会開催について。町田市に試合会場はないものの、機運醸成を図っていただきたい。

③広報まちだは有力なツールだと思うが、若い世代は新聞を取っていない人が多いと聞く。若い世代への効果的な情報発信も課題だと感じている。

会長 広報まちだの配布状況について事務局から説明はあるか。

事務局 新聞折り込み配布のほか、市内の各公共施設や鉄道駅などにて配架している。また、市ホームページでも掲載を行っている。

小八重委員 みるスポーツについて、小さな大会でも効果的なPRを行うことが、スポーツ実施の機運醸成において重要だと感じている。

会長 今後はSNSを効果的に活用していけるとよい。現状市では情報を集約するプラットフォームなどはあるのか。

事務局 市のSNS等の媒体を活用するしくみはあるが、レギュレーションもあり、対応が求められる。

会長 まちだサポーターズによる情報発信と連携するなど、SNSを多様な主体で連携し活用していけるとよい。

宮崎委員 支えるスポーツの視点が重要と考える。また、SNSも効果的に活用できるとよい。

さらに、水野委員と同じく「ゆるスポーツ」の考え方も重要と考える。障がいの有無にかかわらず一緒にできる「ユニバーサルスポーツ」を、(仮称)町田木曾山崎パラアリーナが建設されることともうまく連携して、市が推進し、町田市ができることを対外的にアピールしていけるとよい。

会長 ゆるスポーツやユニバーサルスポーツなど、用語の使用について考えはあるか。

永吉委員 ユニバーサルの視点は重要。言葉が独り歩きしないことが重要だと考えている。

宮崎委員 本学でもベースボール5という性別・年齢・障がいの有無に左右されないユニバーサルスポーツに取り組んでいる。ユニバーサルスポーツという言葉は色々なところで使われてきていると感じる。障がいの有無にかかわらず一緒に実施していけるとよい。

- 水野委員 「ゆるスポーツ」は高齢者にわかりやすく、「ユニバーサルスポーツ」は若い世代にわかりやすい。「ゆる」という言葉はスポーツ嫌いのハードルを下げること考えられる。「ゆるい」部活動ならやれるという子どももいると聞く。
- 会長 大学のサークルのようなものも求められてくる。  
今後5年で言葉の使い方や考え方について整理しながら取り組んでいけるとよい。

### 3. 事務局から

事務局から今後について説明を行った。

### 4. 閉会

以上